

人口激減都市夕張における縮小型都市像にむけた相互プランニングプロセス - 北海道夕張市における都市再編研究 その3-

正会員 ○岡部 優希*
同 瀬戸口 剛**
同 長尾 美幸*
同 永島 健児***

2. 都市像と計 a. マスタープラン
コンパクトシティ 都市構造 プランニングプロセス
人口減少 地域資源 夕張市

1. はじめに

地方小都市において今後急激な人口減少が予測され、これまでの生活を維持できない状況になりつつある。今後は、拡大してきた都市を人口規模に合わせて形成していくことが求められる。現在各自自治体において、「コンパクトシティ」が計画されているが、拡大抑制型を前提としており、急激な人口減少には対応していない。今後は、縮小型コンパクトシティの計画論を確立する必要がある。

「縮小型コンパクトシティ」を計画するに当たり生活実態や生活意向に即した将来像の必要性から住民のクオリティオブライフ（以下QOL）を支える計画、地域の質的发展のため地域資源・文化資源の活用による地域のアイデンティティを組み込む計画が求められ、これらを実現するためには住民との対話による計画（相互プランニング）を行うべきである。

本論では、地方小都市の人口減少に伴う都市再編において、北海道夕張市を対象とし、縮小型都市像を計画していく上での論点を明らかにし、縮小型都市構造とアイデンティティを持つ具体的な都市像、地区像を導く相互プランニングを開発する事を目的とする。

2. 論文の方法（図1）

研究の方法として、①住民のQOLを保つ視点から、夕張市における縮小型都市の5つの都市構造を整理し、各都市構造の特徴を把握する。②各都市構造に対する住民の評価により具体的な都市像を明らかにする。③各地区別のヒアリングから、縮小型都市の地区像を把握し、その論点を明らかにする。④夕張市のアイデンティティとなる地域資源を把握し、維持・利活用方法を明らかにする。⑤①～④より、相互プランニングによって得られた縮小型都市像における論点を明らかにする。（ヒアリング対象者は表1を参照）

表1. ヒアリング対象者設定

調査内容	調査対象者	選出理由
【ヒアリング調査1】 夕張市まちづくりマスタープラン策定委員 ^{注1} 12名/ 一般市民1名	夕張市まちづくりマスタープラン策定委員 ^{注1} 12名/ 一般市民1名	設定したQOLの項目に精通している住民であり、策定委員の中で都市像に対しての議論を交わしているため。
【ヒアリング調査2】 各地区における集約の方法	各地区勤労者と高齢者各1名×7地区 ^{注2}	年齢層によりライフスタイルが大きく異なるため。
【ヒアリング調査3】 夕張市における地域資源の利活用方法	夕張市在住の夕張の歴史専門家/ 自然資源・生態系に関する専門家	夕張市における地域住民と地域資源の実態の双方を把握しているため。

3. 縮小型都市の都市構造における論点（図2）

はじめに、夕張市において重要視すべきQOLを明らかにし、各住民の生活像を満たす都市構造を導いた後、5つの都市構造に分類した¹⁾。さらに5つの都市構造への住民による再評価を行い、8つの具体的な都市像を導いた。都市像を決定するにあたり、以下の6つが論点となった。

【a. 拠点形成地区の選択】拠点の持つ意味は都市像ごとに異なり、どの地区にどのような役割を持つ拠点を形成するかが論点となる。例えば、地理的にも夕張市の中心である清水沢地区の場合と、札夕線との結節点でありインフラ整備が整う若菜地区、夕張メロンなどの農業を中心とした沼ノ沢地区、紅葉山地区を拠点とする場合が挙げられた。

【b. 各地区の存続・移転】人口減少により生活サービスが低下し、現状を保ちながら地区を存続することは難しい中、どの地区を維持・撤退するかが重要な論点となるが、人口の減少だけでなく市全体の中での地区の役割を踏まえる必要がある。例えば、本庁

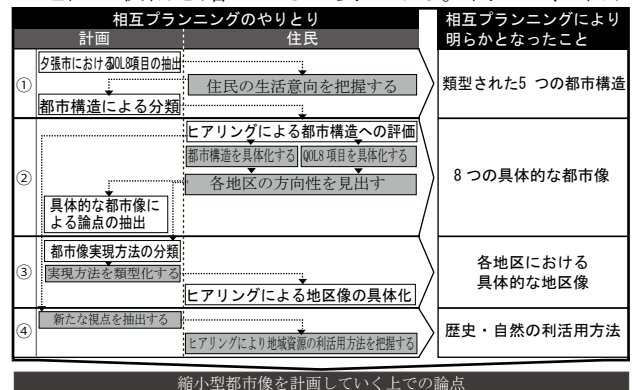


図1 縮小型都市像を計画していく上での論点

図1 縮小型都市へ向けたプランニングプロセス

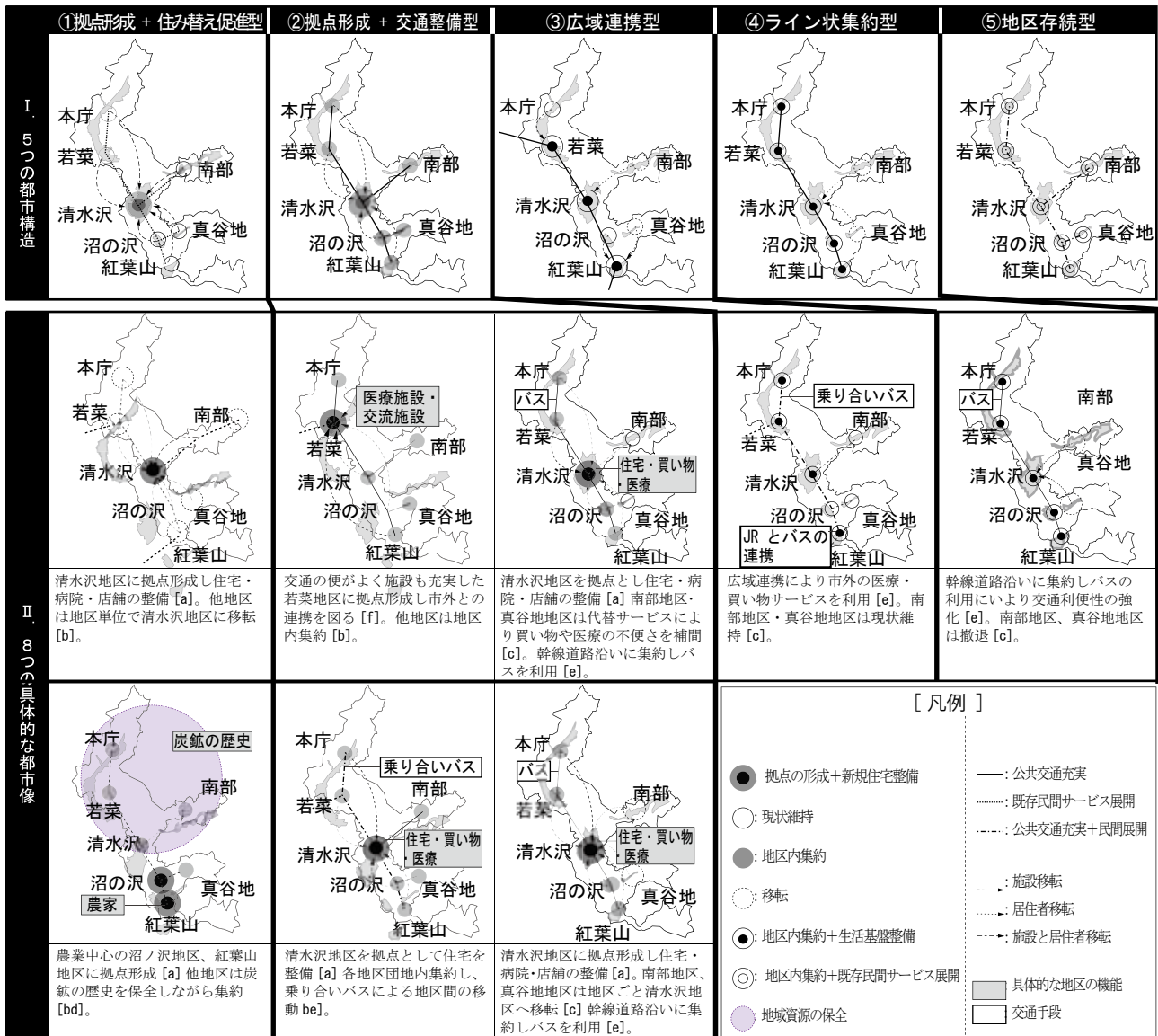


図2 夕張市における集約都市像5パターンと具体的な都市像8パターン

地区は人口は減少しているが、施設が充実し交流人口が多いため、地区を存続する場合が挙げられた。

【c. 衰退地区の撤退方法】特に高齢化と人口激減により、今後消滅する可能性が高い南部地区、真谷地地区は、住民のQOLをどのように保ちながら撤退するが論点となった。宅配サービス等の代替サービスにより地区に住み続ける住民の生活を維持する場合、移転を行う場合が挙げられた。

【d. 地域のアイデンティティを組み込む方法】行政コスト等の効率性のみを重視し、都市の縮小を考えると地域のアイデンティティを失う可能性がある。その資源を明らかにし、利活用や維持管理の方法を、縮小と同時に考えることが論点となった。特に夕張市の場合、炭鉱の歴史として坑口やズリ山の保全、希少動物の生態系保全が挙げられた。

【e. 交通手段の確立、代替サービスによる補間】各地区が自立し存続することは困難なため、地区間で連

携をとりながら、通院や買い物など住民の利便性を保つことが必要である。それを担保する方法として、公共交通の強化や乗り合いバス、宅配サービスが挙げられた。

【f. 市外との関係性の創出】夕張市の場合、市内の施設でQOLを全て担保せずに市外の施設との関係性を創出しQOLを支えていくことが求められる。市外病院やスーパーへの送迎バスによる市外とのアクセスを強化する場合が挙げられた。

4. 各地区での集約方法の論点（図3）

夕張市は分散した都市構造であるため、地区別に将来像の計画が必要である。1) 地区縮小の方法 2) 住民のQOLや地域資源を考慮した集約方法 3) 市内他地区・市外との連携 4) 縮小部分での新しい価値観の創出、について各地区の住民へのヒアリングを行い地区の縮小における論点を明らかにした（括弧内は地区名の頭文字とする^{注2)}）。

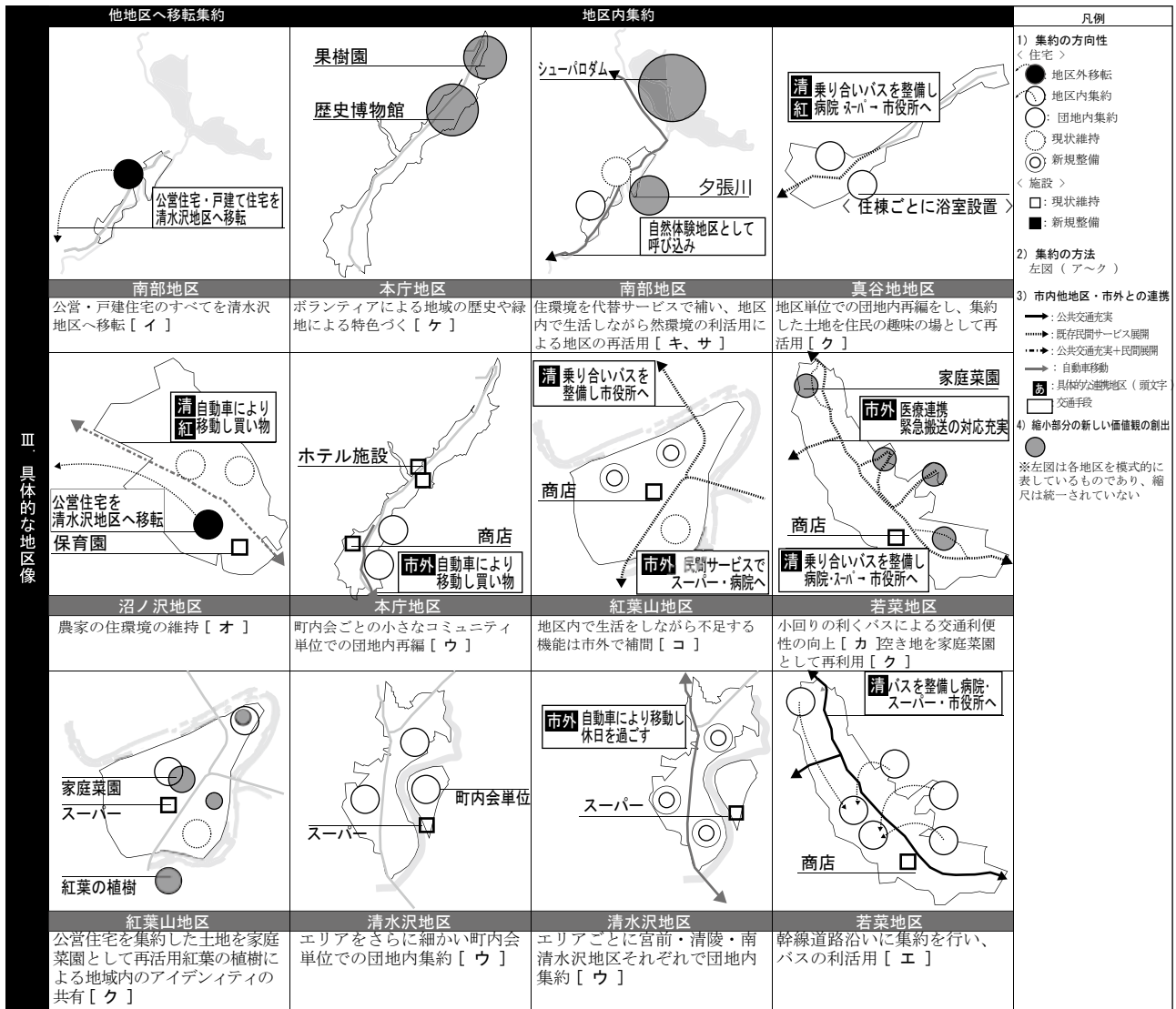


図3 夕張市における具体的な地区像

ア．高齢者が自分の意思で自由に行動できるように、地区内にある全戸を拠点地区へ移転する。(南部)
 イ．市民の権利を尊重するために、戸建住宅は維持し、公営住宅を拠点地区へ移転する。(沼の沢)
 ウ．炭鉱時代から続く付き合いの中で住み続けるために、コミュニティを重視し町内会単位で集約する。(本庁、清水沢)
 エ．利便性を重視し幹線道路沿いへ集約する。(若菜)
 オ．農家が農地に住み続けることができるように、地区内に農家を存続する。(沼ノ沢)
 カ．地区間の移動手段を確保するために乗り合いバスを導入する。(若菜、南部、真谷地、紅葉山)
 キ．地区内での生活維持のために、宅配サービスを導入する。(全地区)
 ク．住民の趣味の場を創出するために、住宅を集約して残された土地を菜園として活用する。(若菜、紅葉山)
 ケ．ボランティアや地区住民による博物館運営や菜園運営により地区の特色をつくる。(本庁)

コ．市民の生活サービスの質を維持するために、地区にない病院・店舗等、市外の施設を利用する。(全地区)
 サ．地区の自然環境を活かす。交流拠点として地区内の廃校を利用する。(南部)

5. 夕張市における地域資源 (図4、図5)

夕張市にとって「炭鉱の歴史資源」「自然資源」はアイデンティティとして重要である。夕張市には坑口跡やズリ山など、今もなお炭鉱時代の歴史が目に見える形で残存しているが、定期的な保全活動が行われていない。また、天然記念物として指定されている夕張岳だけでなく、市民の住む市街地周辺にも希少動植物が多数生息しているが、市民の認識は薄い。今後は都市を縮小させながらも、保全活動など市民参加によるアイデンティティの創出が必要とされていることが専門家へのヒアリングから明らかになったが、実現に向けた方策を、専門家と市民へのヒアリングから明らかにした。

【ロ．学習・教育の場としての整備】夕張市の歴史や、

自然についてその価値を知る市民は少ない。そこで、地区に住む子供の愛着心を育てる場を設ける。例えば、既存の博物館や、廃校となった小中学校の校舎などを利用し、自然体験塾を行う。また、博物館に学芸員を設置し、専門的な情報を発信できる人材を配置することで、市民の利域に対する理解が深まり、地域資源を最大限に生かすことができる。

【ハ．交通手段の確保】活動意欲のある市民が気軽に参加できるよう活動のための臨時バスを運行するなど、拡散した地区同士を連結し、移動手段を確保する。

6. 最後に

今回の調査結果より、清水沢地区を拠点地区とし、住民の合意形成を図りながら計画することが望ましい。一方で、今後更に人口減少となった場合、市外との連携を考える必要がある。すると、紅葉山地区を拠点とした都市像の可能性がある。

なお、本研究は夕張市の都市計画マスタープランの策定と連動し、実際に計画に反映されている。

〈参考文献〉1) 地方小都市における住民の生活意向に基づいた集約型都市像の計画研究 長尾美幸 2010
 〈注釈〉注1) 市内各種団体の構成員、公募による市民のうちヒアリングの許可を得られた委員を対象とした 注2) 本研究では本庁地区、若菜地区、清水沢地区、沼ノ沢地区、真谷地地区、紅葉山地区の7地区に分けて地区像を考えることとする。(ヒアリング調査概要：日程／調査①8月26・30日、調査②9月7・11日まで、一人当たり1.5時間程度)

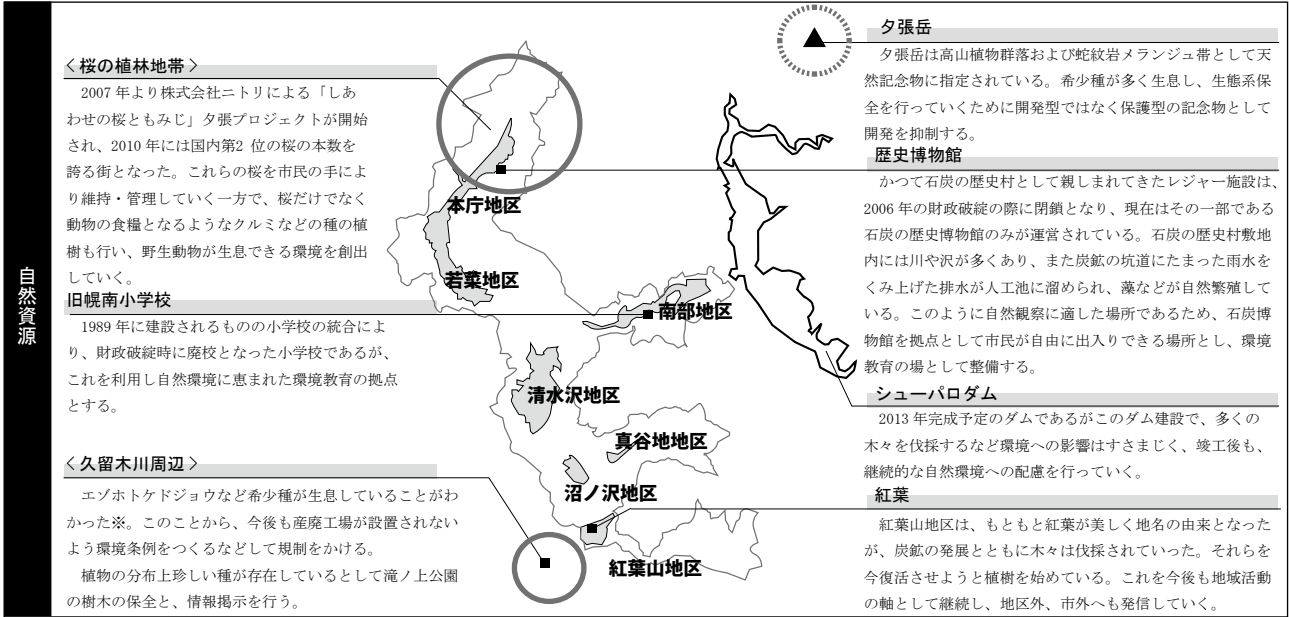


図4 夕張市における自然資源とその活用方法

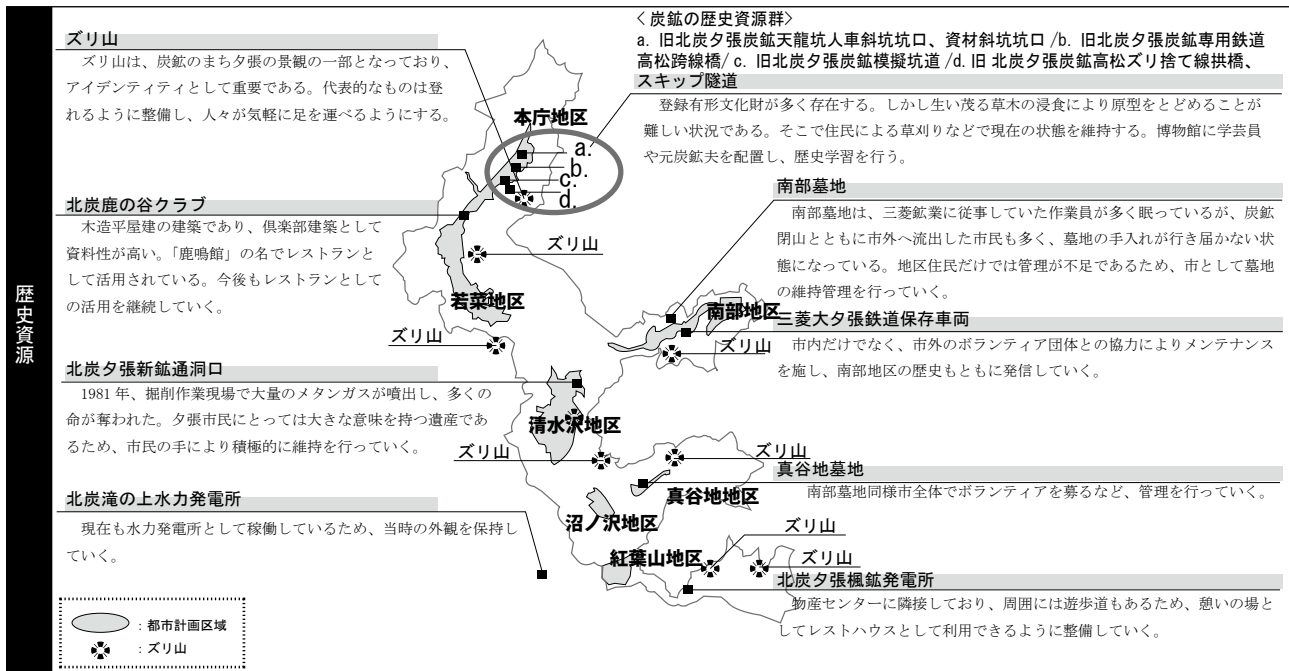


図5 夕張市における歴史資源とその活用方法

* 北海道大学大学院工学院 修士課程
 ** 北海道大学大学院工学研究院 教授 工博
 *** 株式会社 日本設計 工修

* Graduate Student, Graduate school of Eng., Hokkaido Univ.
 ** Professor, Graduate school of Eng., Hokkaido Univ., Dr.Eng.
 *** Nihon Sekkei, Inc. M. Eng.